

【貸借対照表】

(自)平成20年4月1日～(至)平成21年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産	239,721,367	流動負債	37,748,696
固定資産	836,222,665	固定負債	111,132,541
(基本財産)	757,143,037	負債の部合計	148,881,237
(その他の固定資産)	79,079,628	基本金	385,291,000
		国庫補助金等積立金	361,966,757
		その他の積立金	0
		次期繰越し活動収支差額	179,805,038
		(うち当期活動収支差額)	179,805,038
		純資産の部合計	927,062,795

【事業活動収支計算書】

勘定科目	金額	勘定科目	金額
介護保険収入	413,153,912	人件費支出	258,185,073
▲利用料収入	2,021,730	事務費支出	83,153,039
支援費収入	6,597,278	事業衰支出	50,931,287
寄付金収入	5,750,526	減価償却費	36,149,835
経常経費補助金収入	201,639	引当金繰入れ	260,000
雑収入	741,107	借入金利息支出	641,250
引当金戻入	214,000	経常収支差額	-207,830
受取り利息配当金収入	432,462		

2008年度経営概況

ちどり福祉会は2003年の開設以来事業活動は5年目に入りました。08年度からいきいき八田は4床のショート床増床を行い、特養3丁目の2人夜勤を実現するなど賃金労働条件の改善に努めました。しかし、収入増よりも経費の増加が進行し、経営は引き続き厳しいものとなりました。在宅分野では予防保険への移行が緩やかとなり、収入の減少は止まりました。在宅事業では、デイサービスは静養室の改修などにより、利用率が回復しました。ヘルパー事業は、障がいの利用者が増加したものの、介護保険利用者の減少が続き、ほぼ前年並みの稼働にとどまりました。2008年度は、上記損益計算書どおり、法人全体で▲208千円の赤字決算となりました。介護職員の処遇改善もまったなしですが、施設の事業継続のための介護保険制度の見直しもまったなしで、制度改善を求める利用者・ご家族一丸となった取り組みが求められます。

今年の4月に「初のプラス改定」となる介護報酬改定がありました。これまで度重なる介護報酬改悪で苦しめられてきた介護事業所、低い賃金で働かされてきた介護労働者などが立ち上がり、運動の結果、勝ち取ったプラス改定です。今回の改定の目的は離職がとまらない介護職員の処遇を改善し、流出を抑え人材を確保することでした。しかし今回の改定は加算方式、支給限度額はそのまま、利用者負担になるなど問題が多く小規模事業所には不利な内容で本当に介護職員の処遇改善に効果があるか疑問視されていました。そのため国は10月より「介護職員処遇改善交付金」という介護職員の処遇改善にしか使えない交付金の支給を決定しました。ただしこの交付金も介護職員にしか使えないため職員間で差がついてしまうことや2年間の期限付きでその後の保証がないことなどから交付金を取得しない事業所も多く、事業所間の差をひろげるだけで、全体の改善とはなりそうにありません。加算や交付金などの一部手直しでは介護保険の矛盾をより深めてしまうだけになります。「介護の社会科」の実現のため、介護保険そのものを見直す時期がきているようです。